

○ 芸術選奨

部 門	受賞者活動名	受賞理由（概要）
美術 (洋画)	はたけやま のぶゆき 畠山 信行 (59歳)	<p>昭和25年生まれ。現代アートによるグループ展、国内展、国際展に企画出展し、幅広い活動で現代美術の普及に貢献されている。特に平成21年「自然と生命の時空表現」した個展「J I K U U」は注目された。</p> <p>また、美術協会を自ら設立し、児童絵画公募展やチャリティ美術展等を主催企画し、美術を通して社会貢献に寄与されている。</p> <p>今後、現代アートの推進者として、さらにテーマを深め独自の制作を高めることが期待される。</p>
美術 (工芸)	あんどう れいこ 安藤 令子 (52歳)	<p>昭和32年生まれ。平成7年から本格的に七宝工芸を始める。平成16年の芸術選奨新人賞受賞後、日本伝統工芸展に5回連続入選し、通算9回の入選を果たされている。</p> <p>安藤氏の作品の特徴は、有線七宝のモダンな色調とギザ線の作り出すリズム感にある。繊細で格調高い作品を生み出す造形感覚と技術力は専門家の間でも高く評価されている。</p> <p>今後も新たな表現技術を獲得しながら独自の作風を確立し、七宝工芸の力強い牽引役となることが期待される。</p>
文 芸 (詩)	きよたけ こう 清岳 こう (59歳)	<p>昭和25年生まれ。昭和49年から10冊を越える詩集を刊行されており、常に明確な問題意識とテーマをもって編んだ各詩集には新鮮なポエジーが満ちている。日本の詩界において、清岳氏の詩業への評価は高く、棕庵文学賞、富田碎花賞を受賞されている。</p> <p>平成21年10月に刊行された「風ふけば風」はそれを一層推し進め、現代性と芸術性が融合した作品で日本詩人クラブ賞候補、日本現代詩人賞候補となった。</p> <p>今後、詩表現の展開のますますの拡がりが大いに期待される。</p>
音 楽 (器楽)	仙台ニューフィル ハーモニー管弦楽 団	<p>昭和56年結成。年2回の定期演奏会では毎回約1,000名の聴衆を集めて、平成21年10月に第50回を迎えている。現在は90名の団員に達し、節目の演奏会では難曲への挑戦を続けてこられた。また、仙台国際音楽コンクール入賞者との共演も実現し、高い評価を受けている。</p> <p>常に団員の技術向上を目指しており、今後も確実に活動を継続されていくことが期待される。</p>
演 劇	えなが けい 絵永 けい (55歳)	<p>昭和30年生まれ。大学在学中に劇団に入団し、長年活動されてきた。現在所属する劇団OCT/PASSでは、中心メンバーとして活動し、在仙の有力劇団に育て上げた。持ち前の鋭い感性と多彩な表現力に円熟味が加わり、東北を代表する俳優として活躍されている。</p> <p>また、専門学校で演劇講師を務めるなど人材育成にも意欲的であり、演劇界内外の人望を集められている。</p> <p>今後も演劇界の一層の進展に貢献することが期待される。</p>
メディア 芸術	いがらし みきお (55歳)	<p>昭和30年生まれ。昭和54年に漫画家としてデビューし、平成21年に30周年を迎えられた。これまでも多数の受賞歴があり、平成21年には東北での農村生活をテーマにした「かひろば村へ」で評価を受け、手塚治虫文化賞・漫画賞に最終ノミネートされた。</p> <p>また、県内の図書館や放送局のマスコットキャラクターをデザインするなど、地域文化の振興に大きな貢献をされている。</p> <p>今後も本県の漫画、アニメーション文化の牽引役となる活動が期待される。</p>

○ 芸術選奨新人賞

部 門	受賞者活動名	受賞理由（概要）
文 芸 (短歌)	かじわら さいこ 梶原 さい子 (39歳)	<p>昭和46年生まれ。平成10年に短歌結社詩「塔」に入会し、活動を始め。平成18年に抒情文芸短歌部門最優秀賞などを受賞される。第一歌集「ざらめ」の清新さが、平成21年に刊行の第二歌集「あふむけ」に至ってさらに奥行きが深くなり、全国的にも新人として評価されている。勤務されている高校においては、全校をあげた短歌指導にも当たり、毎年成果をあげられている。</p> <p>本県出身の歌人として、また地域に密着した歌人として、今後が大いに期待される。</p>

《参考》

平成21年度（20年度受賞）までの受賞者数 合計292
 （芸術選奨167名と7団体、芸術選奨新人賞116名と2団体）